

第1学年 国語科学習指導案

日時：令和7年11月27日（木）

学級：1年2組 22名

指導者：尾久第六小学校 1年担任

自分の考えをもち、主体的・対話的に学びを深める児童の育成
～国語科「読むこと(文学的文章)」を通して～

1. 単元名 むかしばなしの すきなところを 見つけよう

教材名「たぬきの系車」 岸 なみ 作

2. 単元の目標

知識及び技能	・文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。(知(1)カ) ・昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむことができる。(知(3)ア)
思考力、判断力、表現力等	・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思C(1)エ) ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。(思C(1)オ)
学びに向かう力、人間性等	・物語のお気に入りのところを紹介するために、いろいろな本を読もうとしたり、好きな場面を探して好きなわけをはっきりさせながら本を繰り返し読もうとしたりすることができる。

3. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 文の中における主語と述語との関係に気付いている。 ② 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。	① 物語のお気に入りのところを紹介するために、いろいろな本を読もうとしたり、好きな場面を探して好きなわけをはっきりさせながら本を繰り返し読もうとしたりしている。

4. 研究主題に迫るための手立て

(1) 確かな知識・技能の習得

・読書活動

11月単元「むかしばなしをよもう」では、主に外国の昔話に焦点を当て、読書に親しむ学習を行う。そこで本単元では、敢えて日本の昔話に焦点を当て、様々な本を並行読書しながら自分の好きなお話の

お気に入りの場面を紹介し合う言語活動を設定することとした。教室に昔話の本のコーナーを設置し、朝読書等で児童がいつでも本を手に取りやすい環境を整える。また日々の読み聞かせて昔話を紹介することで、お話に対する関心を高めていく。昔話の本は、登場人物が少ないもの、物語の展開が明確なもの、文字の大きさが適切なもの、文字量を（多い・少ない）両方用意するなど児童の実態に合わせて精選する。読んだ本は、『むかしばなしのせかい』という記録カードに好きな度合いを星の数で記すようにし、自分の読書の記録を後で見返したり、交流の際に活用したりできるようにする。読書の記録はマトリックスにまとめて掲示し、誰がどの本を読んだのかが分かるようにすることで、児童が日常の中で自然に昔話の本の内容について交流できるようにする。幅広く昔話の本に触れることで、昔話独特の言葉の言い回しに親しみ、自分の好きな視点を明らかにしながら作品を読む力を培っていく。

・語彙力を高める環境整備

昔話を読み、お気に入りの場面を紹介する際には、自分の思いを豊かに表現するための言葉の力が必要となる。そこで、『ことばのたからばこ』の掲示を、教室に常時示すようにする。『ことばのたからばこ』は、光村図書の巻末に記されている言葉を中心に掲示する。また、本校では読書賞の活動が盛んに行われており、自分の読んだ本の感想を話す機会がある。児童が感想を話す際に発した言葉を、“たからばこのことば”として取り上げながら、日常の中で児童が見つけた言葉も積極的に取り上げ、掲示しながら言葉に対する関心を高めていく。

(2) 単元構成の工夫

・単元全体の目標の明確化

自分の好きな昔話のお気に入りの場面を紹介し合うという言語活動を設定し、児童が自覚的に「場面の様子に着目して読むこと」ができる力を養う。そのために、単元の導入では児童の知っている昔話を全体で共有したり、昔話の本を読み聞かせたりしながら、本単元に対する関心を高める。学習ゴールである『むかしばなしおすすめブック』の教師モデルを導入時に提示することで、児童が目的意識をもって学習に臨めるようにする。また学習の流れが一目で分かり、児童が見通しをもって学びを重ねられるように、本時のめあてを一覧にした学習計画表を活用する。学習計画表は本時の中でも取り上げながら、児童が主体的に学びを進めるためのツールとして提示する。

・ワークシートの工夫

児童が物語の叙述に着目しながら、「登場人物の行動を具体的に想像すること」ができる手立てとして、吹き出しスティックを活用する。吹き出しを付けた棒を挿絵に当てながら、登場人物が何を話しているかを想像し、会話を生み出す。その際には、登場人物のセリフを自分の空想で発言してしまうことのないように、基となる叙述に着目させ、本文を声に出して音読する活動を合わせて行う。ペアで会話を想像しながら吹き出しスティックを使って対話し、友達からのアドバイスや感想を受けて自分の考えを確立させる。交流を十分に行った後に、吹き出しワークシートに自分の考えを書くことで、活動とワークシートを連動させながら、自分の考えをより明確にしていく。

(3) 学びを深めるための工夫

・学習形態の工夫

自分の好きな昔話について好きな理由を伝える際には、児童が相手を選んで交流することができるように、読んだ本のマトリックスを活用する。「同じ本を読んでいる友達と交流したい」「違う本を読んだ友達に感想を聞いてみたい」など、児童が目的意識をもって交流相手を選ぶことができるようにする。繰り返し交流した後、自分の考えを書き始めたい児童は書き始め、交流を続けたい児童は継続して交流できるなど、児童が自由に自己調整を図りながら学びを進められるような声掛けを工夫する。

5. 単元の指導と評価の計画

時	◆目標・学習内容	評価			
		知 技	思 判 表	態 度	
0	<p>◆単元の学習内容に見通しをもち、これからの学習に関心をもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔話の本の読み聞かせを聞き、教師が作成した『おかしなおすすめブック』を見て、学習の見通しをもち。 ・関連図書（日本の昔話）で、『おかしなせかい』の記録方法を確認する。 				◎評価規準 <評価方法>
	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話の本を並行読書して、読んだ本の記録を「おかしなせかい」カードにまとめる。 		①		◎物語のお気に入りのところを紹介するために、いろいろな本を読もうとしたり、好きな場面を探して好きなわけをはっきりさせながら本を繰り返し読もうとしたりしている。 <発言・記述>
1	<p>◆「たぬきの糸車」を読んで、大体の内容を捉えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お話の大体（時・人物・場所）を捉え、感想を交流する。 ・単元の学習計画を立てる。 		①		◎文の中における主語と述語との関係に気付いている。 <発言・記述>
2	<p>◆たぬきとおかみさんの行動から、気持ちを想像することができる。</p>				
3	<ul style="list-style-type: none"> ・糸車を回すまねを繰り返すたぬきの様子や気持ちを読み取る。 ・わなにかかったたぬきの様子や気持ちを読み取る。 ・糸を紡いでいるたぬきの様子や気持ちを読み取る。 ・ぴよんぴよこ踊りながら帰っていくたぬきとそれを見守るおかみさんの様子や気持ちを読み取る。 ・吹き出しスティックを使い、たぬきとおかみさんの気持ちを叙述から想像する。 ・ペアで役割を決めて、想像したことを交流し合う。 ・交流を基にワークシートを書く。 		①		◎「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 <観察・記述>
4					
5					
6	<p>◆「たぬきの糸車」の好きな場面に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像し、好きなわけを明確にすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材文の全文シートを掲示し、物語の好きなところに印を付ける。 ・交流する相手を選びながら、好きなわけを伝え合う。 ・交流を基に『おかしなおすすめブック』にまとめる。 		②		◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 <観察・記述>

7	◆お気に入りの場面に着目して、自分の選んだ昔話の好きわけを明確にすることができる。		②		◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ＜観察・記述＞
	・マトリクス表を活用し、交流する相手を見つける。 ・好きなわけを明確にしながら、感想を交流する。 ・交流を基に、『むかしばなしおすすめブック』にまとめる。				
8 本 時	◆お気に入りの場面に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像し、『むかしばなしおすすめブック』にまとめることができる。		②		◎「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 ＜観察・記述＞
	・マトリクス表を活用し、交流する相手を見つける。 ・吹き出しスティックを使って、お話の好きな場面での登場人物の気持ちを想像して伝え合う。 ・交流を基に、『むかしばなしおすすめブック』にまとめる。				
9	◆『むかしばなしおすすめブック』を使って、友達と作品の好きなところを伝え合うことができる。		②	①	◎物語のお気に入りのところを紹介するために、いろいろな本を読もうとしたり、好きな場面を探して好きなわけをはっきりさせながら本を繰り返し読もうとしたりしている。 ＜観察・記述＞
	・マトリクス表を活用し、交流する相手を見つける。 ・友達の『むかしばなしおすすめブック』を読んだ感想を、振り返りシートにまとめる。				◎昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しんでいる。＜観察・記述＞

6. 本時の学習 (8 / 9)

(1) ねらい

お気に入りの場面に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像し、『むかしばなしおすすめブック』にまとめることができる。

(2) 展開

時間	○主な学習活動	※指導上の留意点 ★評価 () 評価方法
5分	○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。 ・前時に行った自分が選んだ昔話のお気に入りの場面と好きなわけを取り上げ、本時の学習へとつなげる。 本時のめあて	※前時の『むかしばなしおすすめブック』を振り返り、好きなわけを確かめる。
	えらんだおはなしのお気に入りのばめんの、とうじょうじんぶつのやりとりを かんがえよう。	

<p>10分</p>	<p>○学習の進め方を確かめる。</p> <p>(個人)</p> <p>①自分の選んだ昔話の本の好きな場面の叙述を音読し、好きな理由を確かめる。</p> <p>②挿絵に吹き出しスティックを当てて会話や場面の様子を想像して発話する。</p> <p><かさじぞうの例></p> <p>①</p> <p>C1「じいさまと ばあさまは、おじぞうさまがはこんできた米やもちで、たいそう よい お正月をむかえました。」</p> <p>C1「すきなわけは、おじいさんがおじぞうさまにやさしくしてあげたことを、おばあさんもよろこんでいるところがすてきだなと思ったからです。」</p> <p>②</p> <p>C1「おじぞうさま、きっとよろこんでくれたんだ。」</p> <p>C1「よいことをしてよかったな。」</p> <p>C1「おじいさんがやさしいから、いいことがあったんだよ。」</p>	<p>※学習の進め方を端的に掲示し、流れを可視化する。</p> <p>※『むかしばなしおすすめブック』の、気に入った箇所とその理由を記載しておく。</p> <p>※叙述に基づいたセリフになるように、本文に着目して音読する。</p> <p>※吹き出しスティックを使って、登場人物の会話を想像しやすくする。</p>
<p>15分</p>	<p>(ペア)</p> <p>①一人ずつ『むかしばなしおすすめブック』を開き、一緒に叙述を音読する。</p> <p>②挿絵に吹き出しスティックを当てて、会話や場面の様子を想像し発話する。</p> <p>③互いに感想を述べ合ったり、新たな会話を想像したりしながら対話する。</p> <p>☆対話する相手を変えながら、繰り返し交流を図る。</p> <p>①</p> <p>C1・C2「じいさまと ばあさまは、おじぞうさまがはこんできた米やもちで、たいそう よい お正月をむかえました。」</p> <p>②</p> <p>C1「おじぞうさま、きっとよろこんでくれたんだ。」</p> <p>C1「よいことをしてよかったな。」</p> <p>C1「おじいさんがやさしいから、いいことがあったんだよ。」</p> <p>③</p> <p>C2「おじぞうさんがよろこんでくれてよかったね。」</p> <p>「『またおじぞうさまに よいことをしてあげよう。』も考えられるよ。」</p>	<p>※ペア交流の前には交流モデルを示し、ポイントを確認する。</p> <p>※読んだ本のマトリックスを確認しながら、児童が自身で交流相手を見付けられるようにする。</p> <p>※ペアで順番に本を机上の真ん中に置いて、交流する。</p> <p>※対話する相手を繰り返し変えることで、様々な考えに触れることができるようにする。</p> <p>※対話がうまくいかない児童やうまくいかないペアは、机間指導で個別に対応を図りながら支援する。</p>
<p>10分</p>	<p>(個人・ペア)</p> <p>・吹き出しに書く内容が明確になった児童から、『むかしばなしおすすめブック』に吹き出しをつける。</p>	<p>★「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 <観察・記述></p>
<p>5分</p>	<p>○本時の学習を振り、<u>次時</u>につなげる。</p> <p>・振り返りシートに本時の感想をまとめる。</p> <p>・学習計画表を基に、『むかしばなしおすすめブック』を発表し合うことを伝える。</p>	<p>※振り返りの感想を全体で共有しながら、まとめ方を確かめる。</p>